



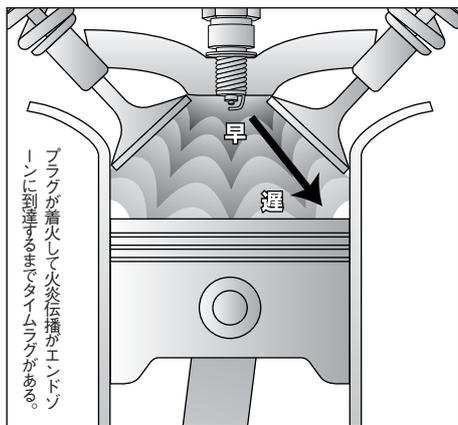
電気系チューニングパーツ

# HSC オリジナル GP-1 RR

半永久的に壊れないというハイパーコンデンサーが記憶に新しい静岡のHSC。その代表である佐々木氏とスタッフ陣が総力を挙げて開発に取りかかっていた、電気系チューニングパーツの最高峰GP-1RRがついに完成。バッテリーに取り付けるだけの簡単装着も魅力の、小さな箱の正体はいったい？

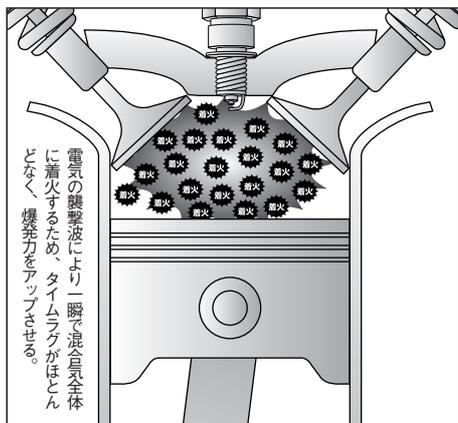


## 通常点火での燃焼



プラグが着火して火炎伝播がエンジンに到達するまでタイムラグがある。

## GP-1RR装着時の燃焼



電気の衝撃波により一瞬で混合気全体に着火するため、タイムラグがほとんどなく、爆発力をアップさせる。

①端子に接続することで、バッテリーに最適な電子パルスを生み出し、特殊バルスとの相乗効果により、バイク全体に流れる電気の流れをスムーズにするというものだ。また、バッテリーの劣化を防ぐ効果もある。このGP-1RRの原型となったものは、15年ほど前にNASAで開発された、宇宙船に搭載されるバッテリーの延命装置だという。その理論に基づき、箱の中にはバルス発信装置、コンピュータチップ、特殊保護回路が収められており、バッテリーをはじめとする各電気系パーツに働きかけるのだ。

H/Dに限らず、クルマやバイクは常にバッテリーから12Vの電気を必要としているが、急加速時など走行状況の変化により、実際は12Vより低下してしまい安定した電気が送られていない場合が多々ある。GP-1RRをつけることでそれを回避することができ、どんな状況下においても安定した12Vの電気を供給できるといわけだ。だがこれはGP-1RRのひとつの機能で、本当の実力はこれだけではない。

箱に収められているバルス発信装置は燃焼室内に驚くべき変化を与えている。バルスとは電圧などの値が脈拍や鼓動のように律動的に変化する現象を言うが、そのリズムの打ち方をコンピュータで何百回とさまざまなパターンに調整した結果、桁違いに増幅された電流（VボルトではなくAアンペア）が瞬間的に流れ、その結果プラグの点火と同時に燃焼室内にプラズマに似た電気の衝撃波を発生させるという。この電気の衝撃波は圧縮された混合気を一瞬にして着火させることができる。その原理はかなりの工学的専門知識が必要なため割愛させてもらうが、通常の点火の場合、圧縮された混合気は、プラグに火花が出た瞬間にプラグ付

近からエンドゾーンに向けてドミノ倒しの燃え広がっていく。これを火炎伝播というが、全部の混合気が燃えるまでにはどうしてもタイムラグが生じてしまう。GP-1RRをつけることで点火と同時に発生する電気の衝撃波は混合気を一瞬にして包み込むようなイメージで、瞬時に力強く爆発に導くことができる。そのため全部が燃えるまでのタイムラグがほとんどなくなるのだ。

1回の爆発で燃焼室内ではこのようなことが起こっているのだが、その結果どう変わるのか……。すでに前モデルであるGP-1Rを装着している人によると、体感できるほどのパワーアップを感じた人がほとんどで、加速感やレスポンスの向上が見られたという。また、混合気を完全燃焼により近づける方向に持っているパーツなので、燃費の向上にもひと役買っている。このGP-1RRは、GP-1Rをよりパワーアップさせ、可変ダイヤル（次ページにて説明）を追加したものである。その効果は間違いないだろう。百聞は一見に如かず。

行状況の変化により、実際は12Vより低下してしまい安定した電気が送られていない場合が多々ある。GP-1RRをつけることでそれを回避することができ、どんな状況下においても安定した12Vの電気を供給できるといわけだ。だがこれはGP-1RRのひとつの機能で、本当の実力はこれだけではない。

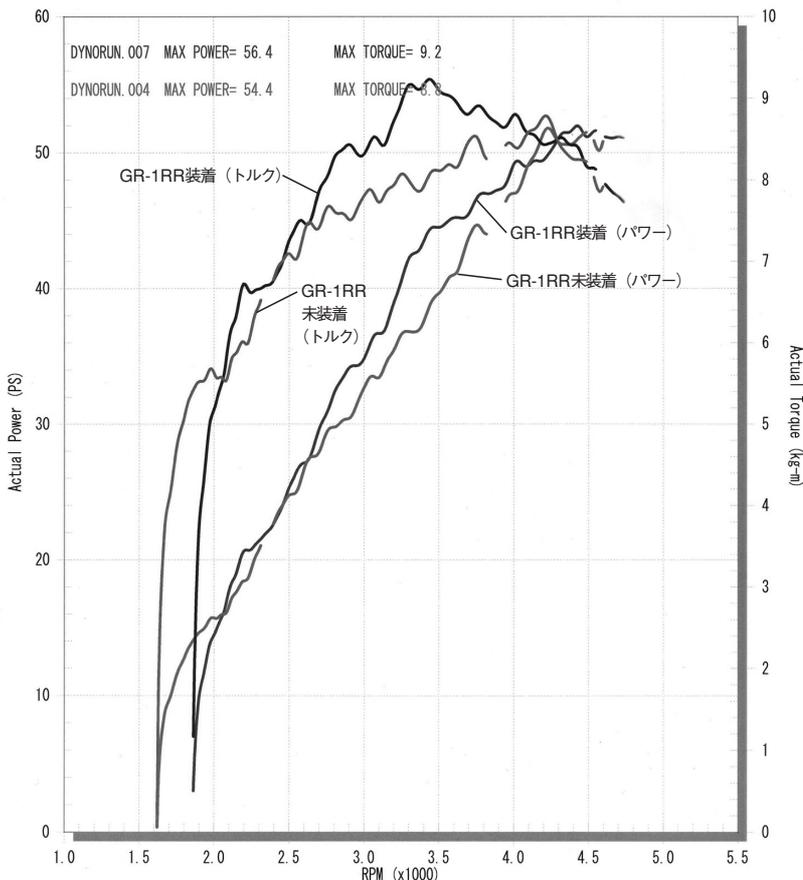
どんな時でもいい電気一気に包み瞬時に燃焼

箱に収められているバルス発信装置は燃焼室内に驚くべき変化を与えている。バルスとは電圧などの値が脈拍や鼓動のように律動的に変化する現象を言うが、そのリズムの打ち方をコンピュータで何百回とさまざまなパターンに調整した結果、桁違いに増幅された電流（VボルトではなくAアンペア）が瞬間的に流れ、その結果プラグの点火と同時に燃焼室内にプラズマに似た電気の衝撃波を発生させるという。この電気の衝撃波は圧縮された混合気を一瞬にして着火させることができる。その原理はかなりの工学的専門知識が必要なため割愛させてもらうが、通常の点火の場合、圧縮された混合気は、プラグに火花が出た瞬間にプラグ付

近からエンドゾーンに向けてドミノ倒しの燃え広がっていく。これを火炎伝播というが、全部の混合気が燃えるまでにはどうしてもタイムラグが生じてしまう。GP-1RRをつけることで点火と同時に発生する電気の衝撃波は混合気を一瞬にして包み込むようなイメージで、瞬時に力強く爆発に導くことができる。そのため全部が燃えるまでのタイムラグがほとんどなくなるのだ。

安定した12Vと電気の衝撃波がGP-1RRの肝

Bull Docker TAGOS Dynojet Research



## 老体に鞭打ちダイノマシンに挑戦!!

さてインプレッションである。装着したモデルは81年式FXS。インプレにあたり高年式のバイクの方がいいのでは…とも思ったが、普段通勤で乗っているバイクじゃないと意味がないので、我がショベルに装着してみることにした。現在調子はすぶる快調なため、変化はあまり期待できないかと思ったが、3速で2000~3500回転付近まで一気に引張った時の加速感はかなり気持ち良く、グイグイ押し出される感じが強くなった。

言葉だけではちょっと嘘臭いと思われるので、今回の事実をダイノマシンにてパワーとトルクを測定することで実証してみることにした。GP-1RR装着時と未装着時のグラフを比較して、結果はご覧の通り。ショベルはポイント点火で銅芯のプラグコード使用のため、ダイノマシンがノイズを拾ってグラフが多少ジグザグになってはいるが、3000回転あたりでトルクが確実に増しているのがわかる。数値的にもGP-1RRの実力は証明された。それにしても測定で10回ほど5000回転以上にブンまわした我がショベル。壊れなくてホント良かった……。(COZY)



〈ダイノマシンによる測定協力〉  
 ◆ブルドッカータグス TEL0270-21-0778 www.bd-tagos.net

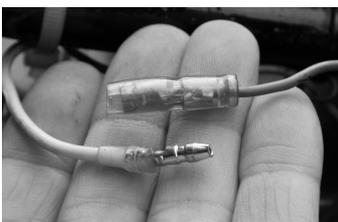
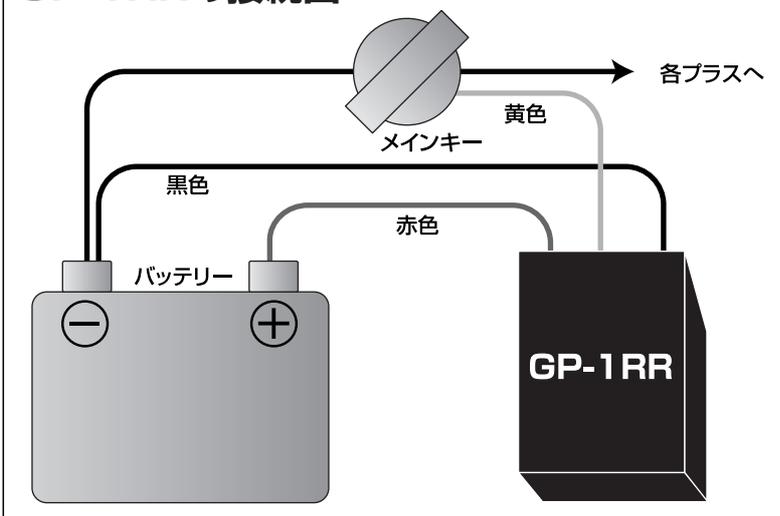
### HSCオリジナル/ GP-1RR 3万9900円



GP-1RRにはGP-1Rにはなかった可変ダイヤルが装着された。エンジンの固体差や圧縮比に合わせてダイヤルを調整することで、自分の好みに合った味つけにセッティングできるという優れたものだ。  
 ※HSCではユーザー側に納得してGP-1RRを購入してもらいたいという意向があり、お試し期間を設けている。詳しくはお問い合わせを。

◆HSC (エイチ・エスシー)  
 静岡県沼津市大観方21-8  
 TEL055-924-0636  
<http://www.w-hsc.co.jp/>

### GP-1RRの接続図



黄の線はメインスイッチにあるアクセサリーの端子など、バイクのメインスイッチをONにした状態で電気がくるところに接続する。黄の線に電気が流れることによってGP-1RRは作動状態になる。黄の線は先端がギボシ (オス) になっているので、メインキーなどの端子からメスのギボシをつけた配線をつけるとよい。



GP-1RR本体から黒、赤、黄の配線が出ているので、黒をバッテリーのマイナスへ、赤をバッテリーのプラスに直接接続する。